

## 兵庫県川西市・クヌギ林の管理

### 1. 地域の概況

川西市黒川地区は兵庫県の東端、大阪府に接した妙見山のふもとに位置する。京阪神の中心部から 30km 程度しか離れていないが、標高 100～300m 程度の丘陵地に里地里山が広がる。国内の大部分の地域で薪炭生産が停止して二次林が放置されている中、ここでは現在でもクヌギ材を用いた木炭生産が続けられており、昔ながらのやり方で伐採・萌芽更新が続けられている。



兵庫県川西市

### 2. クヌギ林の歴史と維持管理

兵庫県と大阪府との府県境にあたる猪名川上流域は、茶道との道具炭として著名な「池田炭」や「一庫炭」の生産地として室町時代から知られている。これらの炭はその切口が菊花状で美しいことから「菊炭」と呼ばれ、火つき、火もち、香りが良いことから風雅な茶の湯の席で愛用されている。菊炭は歴史的にも名高く、元禄 8 年(1695 年)の「本朝食鑑」に、一庫山中の炭は第一位のものと紹介されている。そしてこの菊炭を生産している当該地域では、現在でも菊炭の生産が続いており、日本一の、そして唯一の生きた黒炭の生産地である。

菊炭の生産にはクヌギの原木が最も適しており、そのため江戸末期から盛んにクヌギが植林された。クヌギの萌芽を数本に間引きし、下草刈りや間伐などを行い、7～8 年で直径 10cm 程度の炭の適材となる。この伐採の作業をローテーションでくり返すことで常に菊炭の適材を提供する環境が提供され、エリア全体的としては伐採直後のところから 10 年生程度の森林までがモザイク状に組み合わせられた景観が形成されている。

これら伐採、萌芽を繰り返して株元が太くなったクヌギの木は「台場クヌギ」と呼ばれ、当地方特有の景観を呈している。

### 3. クヌギ林の生物多様性

手入れが行き届いた林床が明るいクヌギ林には多くの夏緑植物が生育し、ヒョウモンチョウ類など、明るい環境を好む昆虫が多く生息する。さらに、クヌギの台場の部分は太く複雑な形状となり、オオクワガタをはじめとする里山の昆虫の生息場所を提供している。このように、台場クヌギの林は地域の生物多様性保全の一助を担っている。



薪炭林として使用されているクヌギ林

出典：自然環境研究センター（2008）平成 19 年度里地事前の保全方策策定調査報告書。